

令和6年1月17日付【環境新聞】
＜“担い手不足を前提条件に”壁を越えた連携＞
会長 間山 一典

〳〵担い手不足を前提条件に〳〵
壁を超えた連携

全国上下水道コンサルタント協会 会長 間山 一典

地域の安全で衛生的な環境を守る
国民生活を守る、大きな役割を担
る下水道は、老朽化・財源不足・
人材不足と大きな課題を抱えてい
ます。また、頻発する自然災害
は、直接的に国民生活の脅威とな
っています。このような状況に対
し、下水道は、事業継続により、

は生命線です。コンサルタントが
魅力的な職業であること、働きや
すい職場であることを社会的に認
知してもらう必要があります。こ
れからは、これまで以上に広報や
PR活動に力を入れていきます。
昨年の下水道展（札幌）では、



ブースで子供向けクイズを実施
し、景品として、うんこグッズや
絵本を配布しました。絵本は中部
支部が作成したのですが、2日
目で400部が完売しました。も

らった時の子供の笑顔が印象的
で、出前講座や環境イベントでの
出展に活用してもらうため、本部
予算で増刷することになりました。
一方で、これからの時代は、担

い手不足を前提条件として考える
時代ではないかと思っています。
ウォーターPPPも官側の担い手
不足が背景にあり、官民連携を加
速するためでしょう。

当協会のビジョン（AWSG
Vision2015-2025）は、これから

の上下水道サービスの担い手とし
ての挑戦」をスローガンにしてい
ます。上下水道は、重要なイン
フラを、後世に健全な状態で引き
継いでいくため、我々自身が主体
的に関わっていくという、高い目
標、使命を自らに課したのと思
っています。官民の壁を超えて下
水道の持続に貢献していきます。
下水道には、公衆衛生という重

要な役割に加え、創エネ・再エ
ネ、資源循環や汚泥の肥料利用な
ど、新たな役割も生まれようとし
ています。下水道は、その地域に
眠る資源であって、それを活用す
るのが、SDGsやカーボンニ
ュートラルに貢献できる魅力ある
職業です。人材確保は、我々コン
サルタントだけではなく、下水道
界全体の課題でもあると考えてい
ます。2024年は、下水道の役
割・魅力、職業としての重要性
を、そして水コンサルタントとい
う職業を、協会としても広く広報
・PRして人材の確保につなげて
いきたいと考えております。

24年は、水道行政の大部分が国
土交通省に移管されます。水行政
の一体化とも言われています。水
道、下水道の壁を超えた新たな時
代の始まりの予感がします。激甚
化する災害に対しては、内外水で
の対応や、流域治水などの連携方
策が構築されています。
さまざまな社会課題が山積して
いますが、それは決して暗い未来
ではなく、新しいフロンティアを
切り開く、希望のある時代と思っ
ています。広域化、官民連携、デ
ジタルトランスフォーメーション
と、担い手不足を前提条件として
解決策を見出していく。何年か経
って、あの時が始まりだったな、そ
んな年になりたいと願っています。